

第2回 鶴岡市文化会館管理運営実施計画アドバイザー会議 会議録（概要）

日時：平成27年3月19日（木）

18時30分～20時55分

場所：鶴岡アートフォーラム 大会議室

〔協議事項〕	(1)「事業計画」について (2)「市民の参加や協働」について
〔出席者〕	総合アドバイザー：草加叔也氏 地元アドバイザー：穂積恒雄氏、梅津芳春氏、柿崎泰裕氏、 伊藤裕美子氏、大久保紀子氏 教育長 教育部長 社会教育課長 文化主幹 芸術文化主査 芸術文化主査 芸術文化係専門員 芸術文化係主事 芸術文化係芸術文化支援員
〔公開・非公開の別〕	公開
〔傍聴者〕	1名

1 開会（文化主幹）

2 報告事項

(1)「管理運営ワークショップの結果」について

芸術文化係専門員：**新文化会館管理運営ワークショップかわら版（第3号・第4号）**により報告。

文化主幹：アドバイザーの皆様より、ワークショップに参加した上で、またかわら版を見てのご感想やご意見などを一言ずつお願いします。

総合アドバイザー：2回のワークショップに私も参加させていただきましたが、参加していただいた市民の方の思いをたくさん受け取れていると思いました。ワークショップを行う大きな目的ですが、1つ目は新しい文化会館が整備されるということを知ってもらう、期待を持っていただくということ。2つ目は、新しい文化会館は新たな事業を創っていく火種になる、そこに行くとき々なことを知ることができたり、困った時に行くとき助けてくれたりする施設、そういう新しい価値を知っていただくということ。それから3つ目は、こういう人がこういう活動をしているということを行政の方々が知る、またやる気がある人を見つけていく、運営をしていく中で市民のパートナーを探していくということに、ワークショップはそういった意味で効果があると考えます。

そういう中で、このようにたくさんの意見が出てきたということは、大変期待ができると思い

ました。開館と同時に全てをやるということではなく、管理運営実施計画を作る中で、時間軸での整理も考えていったらよいのかもしれない。

私からは、総括的なお話をしましたが、こういうことがあったよと1人でも多くの人に口伝で伝えていただくということが、今後の効果になっていくと思います。ホームページにいくら情報を載せても読まないという情報は伝わりません。それに対して、口伝というのは大変効果があると考えてください。

最後に、2回目のワークショップのことを、地元紙が写真入り掲載してくれたようですが、高校生を載せていただいたことは大変良かったと思いました。あと、高校生の彼女は新聞部でしたので、高校の新聞にどのように書いていただけたか情報があれば、教えていただきたいなと思いました。

地元アドバイザー：ワークショップに私も2回出ましたが、市民参加、あるいは市民参画という意見がたくさん出ている。ということは、それだけ多くの関心もたれているのではないかと感じました。

一方、これだけのものを運営するには、項目を絞ったり、あるいは優先順位を付けたり、あるいは可否ですね、そういう整理を1回しなくてはならないと思います。

私がもし管理者の立場だったら、前倒しでやれるものはやっていかないと、間に合わないのではないかと感じたことを感じました。

地元アドバイザー：私はグループ2に参加させていただきましたが、市民の色々な意見を集める、色々なことを自由に話していただくという面で、非常に良い機会だったと思います。

事務局の皆さんからは、多くの意見を集約化していただけたと思っていますので、そういった意味で大変ご苦労したと思いますが、総合アドバイザーがおっしゃるように、改めてどうするかということもあります。

例えば、お酒を飲みながら鑑賞できるコンサートというのは、普通に考えると無理だろうと思いますが、自由な意見と捉えたらいいのか、そういった意見も色々考えていかなければならないのかと感じたところです。

他にも、会員組織やボランティア的なもの、清掃や除雪を含めて、協力的な意見も数多く出ているわけですから、そういったところはこれから整理しながら、ボランティア組織なり、サポーター組織なりの持ち方は考えていかなければいけないと思います。

地元アドバイザー：私はグループ3に参加させていただいたのですが、意外と多くの方が関心を持っていて、具体的な色々な事業についても、意見を言ってくれたと思います。

それと、テレビ局が取材をしてくれてテレビに流れていたようで、若い人たちが集まってくれた時にその話をしたのですが、自分たちには関係の無い世界の事のような感じで、まだまだ浸透していないなと私は感じました。

これから同じようなことを何回も繰り返すのは大変ですが、他の学校の高校生も参加できればもっといいのかもしれませんが、友の会やサポーターの募集活動などをしながら、抱負やアンケート、意見などを書く欄を付けて、もっと市民の意見を吸い上げるような工夫があると、もう少し市民が参加しているような感じになるのかなと思いました。

地元アドバイザー：私は1回目だけ参加させていただいたのですが、関心の有る方と、無い方の格差は非常に大きいなと思いました。それから、先ほど総合アドバイザーがおっしゃったように、今の若い人は活字離れで、やはり SNS とかフェイスブックに載っている情報はすぐ見るのですが、活字は見ないのだろうなと思って、どうやったら若い人が興味を示してくれるのかということは、考えていかなければならないだろうなと思いました。

それから、考えてみると、文化会館がこれから建って、主に使うのは20代、30代になるわけです。そういう若者の顔が見えないなというのが思うところで、ワークショップで知り合った若い人たちを通して、何か盛り上がりというか、関心のある人たちとお話ができたらいいなと思いました。

地元アドバイザー：私は2日間とも予定があって参加できませんでしたが、紙面で読み取れる情報と、実際にお顔を見ながら聞く情報ではイメージも違いますので、参加できず残念だなと思いました。それにしても本当に多岐に渡ったご意見が多いなと思いました。

それで、これだけのものをどうやって活かしていくべきか、また意見を集約して進めていくために、総合アドバイザーもおっしゃったように、開館までの時間の中で優先順位を付けたり、それから、これは何が何でも進めたほうがいいのか、これは民間の活力に任せたほうがいいのかという形で、分けて考えていく必要があるなと思いました。

あとは、トータル的に魅力ある文化会館を発信するには、やはり基本的に大きな柱があって、そしてそれに対して付属的に増やしていく必要があるなと思いました。

文化主幹：ありがとうございました。皆さんからワークショップに参加いただいたのご感想をいただいたところですが、今いただいたことも含めて、改めてご協議をしていただければと思いますので、よろしくをお願いします。

3 協 議

(1) 「事業計画」について

文化主幹：それでは、協議に移りたいと思います。アドバイザー会議の議長は、設置要綱に基づいて総合アドバイザーにお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

総合アドバイザー：それでは、次第に従って進めていきたいと思います。それではまず(1)「事業

計画」について、事務局から資料を含めて説明願います。

芸術文化専門員：：資料1・2により説明。

総合アドバイザー：今、事務局から、事業計画について資料2を中心に提案していただいたのですが、皆さんからご助言をいただけたらいいのかなと思います、いかがでしょうか。

地元アドバイザー：事業計画の中で、例えばフランチャイズ団体については、縦割りで活動の拠点と書いてあります。ただ、活動だけではなくて、育成としても、また発信するというようなフランチャイズ団体であって欲しいと思います。要するに、市の中でも当然色々やっていただくわけですが、そう言いながらも、それを全国規模のものに育成しながら看板になってもらう、あるいは観光大使になっていただけるような団体にできれば、私は最高だと思います。そういうフランチャイズ団体やアーティスト団体を選べるような余地、横のつながりがあると良いと思いました。

総合アドバイザー：今おっしゃっていただいたのは、こうやって整理をすると、どうしても縦割りになってしまうのですが、フランチャイズ団体を置くということは育成事業にも波及しているもので、1つの事業の枠に本来は収まりにくいものなことだと思います。つまり、どうやって効果を最大限に活かしていくことができるのかを、考えていかなければならないと思います。

地元アドバイザー：この前のワークショップで、本当は鑑賞に行きたいのに足がないという意見が出ていました。昔みたいにバスやJRのような交通の便は非常に少なくなった。何か催しがある場合、市の共催事業に限定しても結構ですので、希望者がいる地区や遠い所を、1回でもいいので、市バスでシャトルバスの送迎ということが可能かどうか、検討していただきたいです。駐車場も狭いですから、そういう意味でも助かるのではないかと思っていたところです。

総合アドバイザー：単に事業だけを考えるのではなくて、そういった事業の集客へ繋げる仕組みも考えていかなければならないということだと思います。現実には結構厳しいと思いますが、たくさんの方が乗っていただくのであれば、特定の駅などに送迎していくことはできると思います。

東京の国立劇場ですと、有料ですが東京駅や新宿駅に向けて終演後にバスを出しています。それから、滋賀県のびわ湖ホールでも、駅から歩くと15分くらい離れていますので、同じく有料ですが駅まで送迎するバスを出しています。必ずしも駅に着けば電車が来るというわけではありませんが、色々な可能性は考えたほうがいいと思います。

地元アドバイザー：今年も鶴岡音楽祭が中央公民館でありましたが、駐車場が少ないため市役所からシャトルバスを出しますということで、私も乗って行ったのですが、ほとんど乗る人はいませ

んでした。そういうこともあるので、どこまでやったらいいのかといったところは、少し考えなくてはいけないと思います。

地元アドバイザー：自分も事業ということでは色々なことに関わっている立場なのですが、例えば合唱にしても、連盟、県、市、高校など様々ありますが、各組織で育成事業、発信事業、それから鑑賞事業をやっています。鶴岡の良いところは、文化会館が有る無しに関わらず、様々な団体がいい芸術を創り上げよう、あるいは提供しよう、昔から色々なことに取り組んできたところ。また、美術の面でも、県よりも早く田川地区でスタートしている組織ですとか、音楽の組織でもそういうのがあつたりするので、音楽に関わらず色々な組織が色々な活動をしていて、競合することも結構あります。

いわゆる、このワークショップの意見に限らず、既に地域でやってきたものを活かしたり支援したり応援したりしていくのが早い道なのか、それとも本当に新しいホールの中で立ち上げたほうが、前に進める推進力になるのかという部分を、私としては情報を少しまとめてハッキリしたほうが、オール鶴岡になっていくと思いました。

今は少子化の時代だからだと思うのですが、最近は育成に躍起になっている部分もあります。そこも私としては考えるべきだと思います。

それからもう1つ、資料を見ているところには出てきていないものもあると思うので、そういうせっかくあるものは拾って活用して、無駄にならないようにしないといけないと思います。それは多分音楽だけでなく、演劇とか色々な団体、芸術文化協会の中でも関わっているものですか、その中に育成事業などもあるかもしれません。例えば、過去何年かの文化会館の利用状況を見ると、まとまるどころが見えてくるのだらうと思ったところ。です。

総合アドバイザー：ありがとうございました。例えば今お話があつたとおり、ここに書かれているものの中で、すでにやっているものもたくさんあるということですので、他の団体に委ねてやつてもらったり、既存の事業を束ねたり、あるいは分類したり仕分けをしたり整理をしたりする。必要に応じて文化会館の事業にしていくということを考えれば、運営母体も1から10まで全てを作らなければならないわけではありません。そういったことも考えていければ良いと思います。

ワークショップでは、こういった事業をやったらどうかというネタがたくさん出てきました。それを全て市がやる必要があるのか、どうやって運営していくのかは、整理をした上で別のチャンネルで考えたほうが良いのではないかというお話だったと思います。とにかく、言いつ放しになっているものを実現させていくための手続きを考えていきましょうということですね。大変に重要な視点だと思います。事業の企画と実施はまた別のことなので、そういうインターフェースを上手く作ってやることだらうと思います。

地元アドバイザー：実は続けることが大変なのだと思います。お上がやるものというのは予算というものができて、作るのはいいのですが、パッと切られてしまうと、もう終わってしまうよう

な、あとはお前たちでやれというようなことでは、文化は育たないと思います。

本当に育つものは何かと言いますと、それをやろうと思っている人たちがちゃんといることです。予算が付く・付かないに関わらず、やり続けるという覚悟と意思がないと育たないと思います。

そういう視点から、フランチャイズを作っているところが色々ありますが、上手くいくところと、上手くいかないところが出てくるのだと思います。

私も市民なものですから、本当は予算をいただいてやれば良いと思うのですが、自分たちがお金を出してやっているものを、本当に長く市民の文化として育てていくということが重要だと思います。

文化会館の役割というものがあるという、あれもこれもやってしまうと意外と駄目なのではないか、やってもらうことは本当はそんなに多くないのではないかと、ふと思うことがあります。

総合アドバイザー：事業をやっていくには、どうしてもお金が必要な場合があります。ただし、それを汗をかくことによってできることもあるし、それから場所を提供することによってできることもあるので、すべてがお金が無ければできないということではありません。

これから新しい施設や設備を整備して、場所はできるのだから、それをどう活かしていくのかということだけでも、事業は生まれてくるだろうと思います。お金がないので事業ができないという公立ホールはたくさんあるのですが、事業費がなくてもその場所を利活用していくことで、賑わいだけでも貢献できるのではないかと思います。

いつも、人・物・金というものは話題になります。人がいれば、汗をかけばできることもあると思いますし、場所があればできることもあるだろうし、やっぱりお金がないとできないこともあるので、その仕分けも必要だと思います。その仕分けでプライオリティー(優先順位)をつけることと、どうやって継続性があるようにしていくかということが大切だと思います。

地元アドバイザー：東田川文化記念館では、実は自主事業として予算がいただけない中でも、継続して明治ホールコンサートを続けています。志を一つにする方というのは、東京のプロの方でも、あるいは地元の方でもいらっしゃいます。木造で古いので200人しか入れないという箱物の制約はありますが、場所はあるわけですから、そういう方に何とかお願いをしてやっております。

先ほどお話がありましたが、継続しているとやめられなくなるんですね。質は落ちたとしても、東京から一流を呼ぶことだけが全てだとは思いません。でも地元の方々の本当はそれが主人公と考えたら、本当にそれに携われる人間は歯を食いしばってもやる。それが現実ではないでしょうか。そうすると、それをわかってくれる方が必ずいるんですね。

地元アドバイザー：私がやっている演劇分野では、音楽みたいに大勢の人がやっている団体というものはないので、本当に数が少ないですし、ひとつひとつの団体も所属している人数が少ないで

す。本音を言えば、まだ育成してもらいたい段階だなと思います。

でも、今回文化会館ができるにあたって、私は以前からオーディションみたいな形で、地元の演劇団体が一堂に集まって、自分たちは新しい文化会館ができたらこういうことができるということを発表し合えないかというのが、ちょっと楽しみで、そういうことができるとお互いが連携し合って、何かまた新しいこともできるのかなと考えております。そういうことで、オーディション方式でやると、市民の人たちに知らせることもできると思いました。でも、新しい文化会館の使用料は高くなりそうなので、みんなでやっていくのは難しいのかなと思ったりしながら、今話を聞いていました。

総合アドバイザー：場合によっては、市の事業になれば、場所は提供してくれるかもしれません。そんなことも最初はできるといいかもしれません。

地元アドバイザー：鶴岡にある各団体がそれぞれ活動をしていて、それはそれでいいと思うのですが、今回文化会館が新しくなるということを機に、年1回集まって一緒に事業をやろうとか、何か大きい勉強会をしようとか、少し豪華なものを呼んで集まって聴くとか、なかなか難しい要求かもしれませんが、せっかく新しくなるので、そういうみなさんの力になっていけるものやっけていたらいいのではないかと思います。

あとは、うまくいくかどうか分かりませんが、開館記念式典は何をしますかといった検討に、やはり市民が参加できたらいいのかなということがあって、酒田の希望ホールに自主事業企画運営委員会というのがあるようですが、そういった組織を今から立ち上げて検討するとなると、今からだと遅いのでしょうか。

総合アドバイザー：全然遅くはないと思います。

地元アドバイザー：市のほうでこういう公演を勝手に決めたようだけとなるよりは、募集して分野ごとに分かれて、そこで検討みたいなことができ、音楽はこれ呼びたい、邦楽はこれ呼びたいと、グループワークみたいな感じで検討ができれば、市民は嬉しいと思うのですがどうでしょうか。まとめるのは大変だと思うのですが。

総合アドバイザー：ここに各分野の先生がいらっしゃいますので、まとまるかもしれません。こういうことを機に各団体の方たちから集まっていただいて、お話をする機会をつくっていただけるのは良いかもしれません。例えば演劇だったら、バラバラに意見を出されても弱いので、各団体の総意で、鶴岡の演劇界はこうあって欲しいと思っています、というような形で意見を出すと、それは聞いておかないわけにはいかんという話にきつとなると思います。

そういう形で、各分野でまとまると良いかもしれません。または、そういうところから、オープニング事業はこういうのをやったらどうかという提案が出てくる。それも言うだけではなくて、

できれば自ら汗をかこうということをやっていただくということにつながるようになるかもしれません。

地元アドバイザー：例えば文化会館ができたから、みんなで集まって合唱祭をしましょう、吹奏楽祭をしましょうということはあるかもしれませんが、例えば1回目は主催で無料でやるけど、あとはお任せみたいな予算が出てくるかもしれませんが、きっかけ作りというのはできると思います。

それから、例えばアートフォーラムではワークショップをしているのですが、ワークショップをした人たちがそこですごく仲良くなって、2年目でサークルになってしまうというのがたまにあります。それも1つのきっかけ作りだと思うので、先ほど続けるのは大変だと言いましたが、きっかけ作りみたいなことも、ホールの役目にはあるのではないかなと思います。

総合アドバイザー：こういうアドバイザー会議とは別に、例えば音楽分野や演劇分野などで意見聴取をする文化団体会議みたいなことを市が主催して、こういう意見が出ているということに対して、それだったらうちが既にやっているよとか、それを継続するようなことをやりましょうとか、それであれば文化会館は時間と場所を提供しますとか、そういうような意見交換ができると良いと思います。

また、そういったことを考える意見聴取の会のようなものを、各分野ごとに開催してもらおうということも、各分野の団体が集まる機会をつくるきっかけにはなるかもしれません。各分野の代表の方々から、こういう会議を開催するように働きかけてもらっても良いかと思います。そこで意見を聞いていただくような、小さな分科会ができるというのも1つのやり方なのかもしれません。

地元アドバイザー：今の新しい文化会館でのきっかけ作りというのは、非常にいい意見だなと私は思いましたので、そういった意味でもやらなければいけないところがかなりあるなと思いました。

それから今回のワークショップに、建築関係に携わっている方の参加が非常に多くて、この文化会館に非常に興味があるということでびっくりしました。私どものグループにも2人ほどそういった方がおりました、新しい文化会館は妹島和世さんの設計ということで、施設を見に来る人もいるんだよと話していました。そこでは、建設途中の段階のパネル展などもやってはという意見もあったので、私の意見としてはまだ整理はできていないのですが、それと鶴岡の伝統文化の組み合わせみたいなこともできたらいいなと考えております。

そういったことを上手く組み合わせしたり、コーディネートしたりすれば、非常に面白いこともできるのではないかなと思いますので、ぜひ建築関係の方からの意見も聞きながら、まとめていければいいかなと思います。

あともう1点、昔の文化会館が貸館に偏って、自主事業ができなかったということが非常に大きいと思います。40年経過する中で、予算的なことがあってやらなくなってきたというのが1つある訳です。県庁所在地では色々なところをまわってきたものを呼んで、色々やっているわけ

ですが、地方のホールではなかなかできません。ですけど、上手くやっているホールもあるわけですので、そういったところを上手く利用しながら、やはり建築関係を含めて、全国から人を呼ぶというような事業もやっていかないと、せっかく建てたものが物足りなさを感じるということもあるものですから、そういったこともぜひ検討して行かなければならないかなと思います。

あと、資料の最後にもあるのですが、お金のかかるものは、やはり当初の開館事業でなければできないと思います。例えば歌舞伎を呼ぶには相当お金がかかるわけですから、開館の時にできるかできないかも含めて、どのへんまで絞ってやるとか、もう2年後、3年後の話ですから、今から計画していかないといけないかなと思います。

総合アドバイザー：今は市民ワークショップということを行っていますが、もう1歩先に進んで、もう少し市民自らが自主的に行っていくような市民会議のような組織に成長させて、自らそこで汗をかいていく。そういう方法もあるかもしれません。

地域のボランティア組織を持っているあるホールでは、ワークショップから市民会議みたいなものに発展し、そこから独立してNPO組織になった事例もあります。そういったことも視野に入れて、ワークショップを考えていくということもあるかもしれません。

それから最後におっしゃられた、開館記念事業ですが、市民がどう考えていくのかということに加えて大きな目玉事業は招聘しなければならないかもしれません。私も都内でオペラや歌舞伎を観ていますが、新国立劇場の大型のオペラでは、一番いい席で25,000円くらいします。また、ロイヤルオペラだと一番高い席で55,000円もします。なかなかオペラを観る機会は鶴岡ではないかもしれませんが、見始めるとやめられなくなります。行く・行かないは別にして、そういうことが選択できるような街になっていくと良いかなと思います。

それでは、市民参加や市民協働についても、事務局から報告をいただかなければならないので、それを聞いてからまた議論したいと思います。

(2) 「市民の参加や協働」について

芸術文化専門員：資料1・3により説明。

総合アドバイザー：市民の参加や協働に限らずに、今回整理をしていただいた資料を通して、こういうことをやったらいいのではないかという新たな意見でも結構ですし、それから今お聞きになって、ここを特に強調してやってみたらどうかということがあれば、ご意見をいただければと思います。

まず、私のほうから先進事例を含めて、話をさせていただきます。例えば前回のワークショップで、市民サポーターはどんなことをやったらいいのかということについて、グループワークを行いました。ただワークショップをやるだけではなく、次は市民会議や市民サポーターを立ち上げていこうという形に変えていくことも考えられます。先ほどお話がありましたが、開館記念事

業にどんなことをやったらいいかなど、市民サポーターの目線でどういうことをやったらいいのかとかを検討して行く検討会議をやるということも考えられます。

色々なやり方があると思うので、参加して意見を言うだけでなく、自ら考えて行動していただけるような枠組を作るというのはあるかもしれません。実際には既にいくつかできることがあって、例えばこれから、建設が始まるわけですから、記録を作っていくことで施設ができていることを広報したり、宣伝したりする。今はこういう段階ですとか、設計者が今度来てお話しすとか、これからこういう会議をやりますというのを広報していくのも1つだと思います。記録を作るのであれば、ビデオ代やCD代になるものを少し支援してあげて、写真を撮ってもらうとか、それを記録に残していくとか、それを整理してホームページに載せていくということができるだけでも、市民参加でそういうことができるという実践例ができていくような気がします。できることからやっていくということです。

私が今まで経験した中では、今度こんな施設ができますということ、市民サポーターで作った部隊が、あちこちの小学校を回って子どもたちにお話するというのをやられたところがあります。そういうことをすると、話さなければならない市民もちゃんと勉強してきますし、実は最後にもう1つ話があって、こういうホールができるというのを聞いた子どもが、その話を聞いて僕は建築家になりたいと思って、大学で建築学科に進んだという子どもが実際にいるんですね。それは幸か不幸か分かりませんが、でもそれくらい影響することがあります。こんなこともアクションプランとしてはあるので、少し次の段階ではそういう市民サポーターみたいなことを実践的にやっていこうというの也被考えられます。

地元アドバイザー：アートフォーラムもサポーター募集をしているようですが、どういった状況でしょうか。

地元アドバイザー：毎年35人ほどが登録し、10人くらいが入れ替わるような状況です。基本的にアートフォーラムのサポーターの場合は、色々な活動を知ってもらう、それから展覧会に関心を持ってもらう、それから宣伝してもらうといった目的があります。

展覧会の仕事というのは、基本的に専門家以外は作品には触れられないため、我々ができるのはほんの一握りのことなのですが、それでもできることを一緒にやってもらいながら、その展覧会に関心を持ってもらおうとしています。

サポーターの交流会は夜にやるのですが、実際の活動となると夜ということではなくて、結局活動が日中になったりするものですから、美術関係が好きな方で退職なさった方がほとんどです。

総合アドバイザー：ビデオを撮るのが好きな人が建設現場を定点観測して、建物ができていく姿を記録に残すといったことをやっていただいた方もいらっしゃいます。

宮城県の七ヶ浜に小さいホールがあるのですが、そのサポーターにビデオを撮ってマックで編集するのが好きな方がいらっしゃいました。確か本業は漁師なのですが、海が荒れるとホール

に来て、そこのホールの紹介ビデオみたいなものや、事業のアンニュアルレポート(年次報告書)というものをビデオで作ってくれるんですね。一年間どういう事業をやったのかということ、ビデオで編集してくれて、テロップが入ることで、ホールの方がどこかに出かけてお話をする時は、そのビデオを持って行って、こういう事業をやっていますというのを見せるのに必ず使っているようです。よくできているねと言ったら、サポーターの漁師の方が作ってくれていますとおっしゃって驚きました。そういうこともあつたりするので、そういう方の力を借りられるといいですね。

他にも、書道が上手い人に大入り袋を書いてもらったり、楽屋に貼る紙の名前を書いてもらう。達筆で書いてもらおうと、ワープロより気分がいいことがあります。もちろん、看板を書いてもらうというのもありました。

市民には、色々な能力を持った方がいらっしゃるので、そういう方たちを集める。今は開館に向けてですので、まずは集まっていたいただいて意見交換をするということでもよいと思います。

地元アドバイザー：今日も帝国劇場で舞台セットが倒れて怪我人が出たようですが、もしこういうサポーターにお願いして何かあった時の保険というものは、誰が入るのでしょうか。

総合アドバイザー：基本的には主催者で入ります。

地元アドバイザー：次回までにどんなことをしたら良いのでしょうか。例えば同じようなことをやりたい人を集めるとか。

総合アドバイザー：順番が違いますが、今の市のほうで開館以降も含めてこんなこともやったらいいのではないかとということが、資料5の今後のスケジュールの案に示されていますので、説明していただいたらと思いますがいかがでしょうか。

芸術文化主査：資料5により説明。

総合アドバイザー：見ていただいて、何となく今がどういうところのタイミングか分かっていたと思います。年度で言うと26年度が今終わりかけていて、27年度に入ろうとしておりますが、27年度はまだ以外と空白地帯です。ただし、28年度になると、運営組織はどういう形になるかは別にして、何らかの運営人材がいないと、動かなくなってくるというのが28年度です。市民サポーターや市民会議などを27年度で行って、色々な意見が運営組織に反映されていくという感じではないでしょうか。ですから、意見をたくさん自由に言えるのは今年度までで、来年度からは具体的にこういうことを立ち上げていきたいと思いますというようにやっていかないと、すぐにゴールになってしまいます。

当然ながら文化会館の施設整備という一番上の建設のスケジュールは、マスター工程と呼んで

いいと思いますが、これは確実にデジタルで進みます。そこから下は全てアナログに進みます。一番上だけがデジタルなんです。これはプロフェッショナルがやっていますので、契約をしている以上、天候もあるので多少ずれることあるかもしれませんが、ただ確実にできていきます。それに対して、それから下はああでもないこうでもないということですので、それを収れんしていかなければなりません。あるいは方向性を決めていかなければならないと思います。

それで 27 年度からは、それを誰がどうやっていくのかを具体的に決めていかないといけないと思いますし、プレイベントの検討準備というタイミングに入っているので、場合によってはいくつかのサンプル的なことを見せていくということもあってもいいかもしれません。みなさん集まって机を囲んで議論をしていくのではなくて、実際に体を動かしてみるとか、実際に何かをやってみるとかという機会があったほうがよりリアルだと思います。そのことを通じて、どんなことができるのかということに次には考えていかななくてはならないように思います。

もちろん先ほどからお話になっている、例えば演劇の団体の方たちが 1 回集まって議論しましょうですとか、コーラスの方たちが集まって文化会館にどういふことをお願いしていくのか、逆に言うと自分たちが何ができるのかということの議論をしていただく場を、市がお膳立てしていくということもあるかもしれません。意見交換会というものもぜひやったほうが良いと思います。それを振り返り、自分たちはこういうことをやって欲しいけれど、ただし自分たちもこういうことができるということを考えていく。両方が Win-Win になるように、陳情型の交渉ではなくて、ディール(取引)だと思って、自分たちもこういうことをやるから、ぜひ市もやってくれというような考えができるといいですね。

もちろん、それぞれの団体が意見を言ったということも大変に重要だと思いますし、そういうことを記録に残していく作業も、27 年度にはやったほうが良いと思います。

地元アドバイザー：開館記念事業を市民で考えるということは可能でしょうか。にこ・ふるか第 3 コミセンあたりを借りて、各アドバイザーから分担していただいて。

総合アドバイザー：どういうスタイルがベストなのか、ということもあると思いますが。

地元アドバイザー：急にいっぱい来られても大変かもしれませんが。

芸術文化主査：でも来るでしょうね。

地元アドバイザー：でも、勝手に決めた感があるよりは良いかなと思います。ただ有名な人を呼ぶだけではなくて、ステージと一緒に立つとか、地元の人とコラボ的なことはできないでしょうか。そういったことをすると、人もいっぱい集まると思います。

それと、先ほどもありましたが、周りでは舞台の人よりやはり建設関係の人のほうが、妹島さんの建築にすごく興味を示してくれています。建設業界の会議もありますので、妹島さんが来た

時に、そういう人たちに一緒にお話をしてもらおうというのも良いのではないのでしょうか。

今度、坂茂先生が鶴岡の「サイエンスパーク」をデザインするわけですので、今鶴岡では有名な建築家が2人も関わっているわけです。それ以外にも日本設計さんの「加茂水族館」もありますし、高谷先生が設計した「まちキネ」も賞をいただいていますので、見るところは色々あると思います。金沢の21世紀美術館も設計関係の方が来て、いろいろ見て回るツアーというのをやっていますよね。そういう感じで、何か仕掛けを作って、外からの人を呼ぶということも考えていかないといけないと思います。

総合アドバイザー：妹島さんがこれからこんな施設ができますといった市民説明会をする予定はありますか。

芸術文化主査：建築課のほうが主催で、来年度1回行う予定とは聞いております。

総合アドバイザー：建築家がどういう考え方で設計をやっているのかということや、直接聞く機会は、なかなか鶴岡では多くはないかもしれませんので、市民も参加出来て、妹島さんからこういう施設ができるという説明を受けたり、意見交換ができる会ができるといいかもしれません。

社会教育課長：来年度、管理運営実施計画ができた後に、シンポジウムをやればとも思っておりまして、例えばそういうところで管理運営だけではなくて、妹島さんからタイミングを合わせてもらって説明してもらおうということも、可能性としては考えられます。

総合アドバイザー：進捗状況をご報告いただくのと、それからその中で、こんな事業はどうかということや、こういうことを決めていますということやシンポジウムのような形で報告するのも良いかもしれません。建物とこんなことをやろうということが、どうマッチングしているかという話も聞けるといいかもしれません。

建設のプロセスの中でも色々なことができるといいなと思います。施工への市民参加ということも考えられます。良くあるのは仮囲いにみんなで絵を描くということで、オープンした時にこんな街になって欲しいという絵を市民に募集して、一間幅ずつ応募した市民の方に、ペンキだけは市が用意して描くということも1つの施工への市民参加です。

ある美術館ですと、施工すると見えなくなってしまうのですが、外壁にぶら下げたタイルの裏側にみんなでサインをする。タイルにサインするために、100円ずつ払うということも考えられるかもしれません。それから私がお手伝いしたところだと、アプローチのコンクリートのレンガのプレートに、市民のメッセージを書いて埋め込むということをやっているところもあります。このようなことは、設計者が受け入れてくれないと上手くできないのですが、施工への市民参加ということで、そういうことをやっている事例もあるので、可能性があれば考えていってはどうでしょうか。おそらく仮囲いは受け入れてくれやすいと思います。

芸術文化主査：仮囲いの件については施工者と話をしている、いいですよとされていますので、企画をすれば実現できると思います。それから、我々のほうで考えていた話なのですが、仮囲いの一部に、中央公民館の看板のサイズと同じ枠を作ってもらって、仮囲いのところでも設置できるようにしたら、あの白い仮囲いが少し華やかになって、更に PR にもなるという話はしていました。そういったことも可能な範囲でやっていければと思います。

総合アドバイザー：場合によっては、どこかのデザイン学校の子どもたちに、この部分を任せるといったようなこともあります。色々な方法がありますので、ぜひそうやって関心を持っていただくと良いと思います。

地元アドバイザー：ワークショップでも、見学会をやって欲しいという意見もありました。

地元アドバイザー：先ほどお話があったように、お金もたくさん使うことになるわけですので、何の事業をやりたいかを集まって聞くとか、アンケートを取るとか、何らかの形で市民に参加してもらう方法はないでしょうか。

地元アドバイザー：そこで決めたことは実施しなければならないのでしょうか。それとも、意見を聞くだけでしょうか。

地元アドバイザー：先方の都合もあるし、予算の都合でできない可能性もありますので、必ず実施できるとは限りませんと書いておいて、どんなことをやりたいかという意見を聞ければと思います。

芸術文化主査：ワークショップもそうですが、参考で聞くことは可能だと思いますし、意見を聞くことも大事なことだと思うのですが、言ったから必ず取り上げられるというわけではないので、そこを理解できていけばよいのですが、悩むところです。

あと一番心配しているのは、開館記念ということで、その時じゃないとできないものがあると思いますが、どんどん積まれてもトータルしたら万歳しなきゃならない。そういうこともあるので、経費もそうですし内容もそうですが、バランスが重要だと思います。ベルリンフィルやミストラルなどのご意見もありましたが、このアーティストを呼んで欲しいという意見よりは、こういうことをやろうというような大枠と言いましょか、そういうことを組み合わせさせていって、その中で予算を見ながらやっていくということは展開としてあると思います。

盛り上がりとしては市民の人を集めて意見を聞くというのはすごくいいと思うのですが、実現となると厳しいところもあるので、どうやって取り扱うのかということがすごく難しいところだと思います。

酒田の希望ホールですと、市民が関わっている自主事業の企画運営委員会があって、ジャンルごとに3つのグループに分かれて、それぞれ打合せをして各グループで事業案を出して、それを集まって議論して、年間の予算を見ながらバランスを取って調整しているようです。そういうやり方もあるのかなと考えてはいます。

地元アドバイザー：市の音楽祭は、昔はマネージメント会社にお任せという時代がありましたが、そのお金を演奏家に全部使えば良いのではと思ったので、最近まではそのお金でオーケストラを毎年呼んでいました。いわゆるマネージメント料というのが結構かかったり、歌手を呼ぶにしてもマネージメント会社を通すと価格が数倍かかるということもあるので、そこを安くする方法はないとか、結局ノウハウがなければ大変なのですが、マネージメントにすごい時間をとられることもあります。

地元アドバイザー：いつと限定すると高くてだめですね。余裕を持って、いつかこっちにいらっしやる時にといった形でやると良いかもしれません。

地元アドバイザー：先ほどコラボという話がありましたが、私はそれで、その音楽祭でプロの方と地元の高中生や主婦の方たちが共演できるようにしたら、何か伸びるといったメリットがあるかもしれないと思いました。以前、芸術選奨文部大臣賞の新人賞を取った福井敬さんというテノールの方が、鶴岡音楽祭でトゥーランドットを歌ったことがあって、その時一緒に歌っていた鶴岡の高中生が、何年後かに福井さんの指導するオペラで歌うことになって、そこであの時僕の後ろで歌っていたのかという話になってですね、そういう1つのものが、養育にも発信にもなっていくということはそういうことかなと感じました。

それから、もう1つ言いたかったのは、地元とのコラボをする際に、本当にプロの方たちと一緒に演奏に関わるには、1年くらい前から十分に準備をしていかないと、お互いに感動できるものがないと思っています。本当にこう身に沁みこんで全てのことに対応できるまでには、我々アマチュアだと1年や2年はかかります。多分それは、演劇でも同じだと思います。

例えばオープニングイベント、プレイイベントにしても、大枚を払ってプロを呼んで、私たちはただチケットを売るという方法もあると思うのですが、地元とコラボするほうが安いお金でできるし、良いものができる場合も多いです。自分たちに返ってくるものもたくさんあるので、本当はやりたいのですが、段取りを考えたり練習時間を取ったりと製作期間が必要なので、そこをやっていくのは製作の本当の難しさだと思います。

総合アドバイザー：ありがとうございました。そろそろ時間ですので、まとめたいと思いますが、来年度は次の段階で、アクションプランにして、実行に移すということを、きっとやらないといけなくなるかなと思います。アクションプランを作って実行に移すということはそう簡単ではないので、それもできることから少しずつやったほうが良いと思います。

先ほどお話がありました市民会議のようなものも、陳情型の市民会議ではやる意味がないので、やるとしても、もう少し建設的な議論や検討ができるような会議にできればいいと思います。

今回は色々な課題を出していただいたので、具体的にどうやったらそういったことができるのかということ、私も先進事例をいくつか思い出しながら整理をしてみたいと思います。

アイデアを提供していただいて、残された考える時間というのは来年度の4月から1年くらいしかない、まだ確定しているわけではないようですが、具体的な運営組織があればある程度委ねて作業していただきつつ、なおかつ市民の意見も同じように吸い上げる幹は残しておく。それがどういう形になるかは別にして、それも具体的にどのように吸い上げるか、通り良き管が作れるかということも、皆さんのアイデアにかかっているところかもしれません。

今年度のこうあったらいいなというところを、次の段階ではそれを具体的な形に落としていく、それから活動に移すという段階の作業を、本当に短い時間でやらなければならないので、ぜひお知恵を拝借するのと、それから皆さんが全てを背負う必要はないので、お仲間を集めて徒党を組んで、事に当たれるようにできればいいなと思います。

悪い意味ではなくて、色々な人達が関心を持っていただくような、プラットフォームをつくっていくことが必要かと思います。繰り返すようですが、たった後3年くらいで完成してしまいます。健康に憂慮していただいて、ぜひ先頭で旗を振っていただきたいと思います。それでは、来年度に向けてエールを送るということで覚悟を決めた会議ということで終わりたいと思います。

文化主幹：どうもありがとうございました。今回ご意見をいただいたところをまとめまして、次の第3回のアドバイザー会議に向けてまとめていきたいと思います。次回ですが、4月30日前後で時期設定をさせていただければと思っておりますが、いかがでしょうか。

それでは仮で30日ということで、また再度確認をさせていただきたいと思います。

最後になりますが、難波教育長より、皆様にご挨拶を申し上げて終了といたします。

教育長：あいさつ

文化主幹：ありがとうございました。では以上をもちまして、第2回鶴岡市文化会館管理運営実施計画アドバイザー会議を終了いたします。遅くまでありがとうございました。

以上